

第5回 伊豆市総合計画審議会 会議要録

日 時 令和7年11月17日（月）午後7時00分～7時40分

場 所 本庁舎別館 大会議室

出席者 ○伊豆市総合計画審議会委員（12名）

山田健次会長、高橋いづみ副会長、青木加奈委員、浅田恵子委員、飯田正志委員、酒井新二委員、櫻井美鈴委員、佐藤雅彦委員、勝呂克彦委員、勝呂義衛委員、鈴木智治委員、服部保江委員

1. 開会

2. 会長挨拶

本日は答申案の内容を確認する。本日も委員の皆様には、忌憚ない意見を頂戴したい。

3. 議事

（1）パブリックコメントの実施結果について

資料1について事務局より説明。

（会長）

議事（1）パブリックコメントの実施結果については、報告事項のため、次の議事に進行する。

（2）基本構想（案）について

資料2について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）

修正箇所は、赤字で示しているとの事務局の説明であった。前回の審議会にて審議した内容のため、基本構想については事務局案で決定したいが、いかがか。

（一同）

異議なし。

（3）基本計画（案）について

資料3について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）

基本計画についても事務局案で決定したいが、いかがか。

（一同）

異議なし。

(4) 答申（案）について

資料4について事務局より説明。以下意見交換。

(会長)

審議会においては、委員各位より多様な意見が寄せられた。それらを取りまとめ、付帯意見として整理したものである。付帯意見は、資料記載のとおり、当該計画を推進する上で留意すべき事項を列挙したものである。付帯意見案について、ご意見を賜りたい。

(委員)

2番の付帯意見について、「安心して暮らせる環境づくりに努められたい」では表現がやや弱いと感じる。「一層努められたい」や「強力に推進されたい」など、より責任感を強調する表現に変更いただきたい。人口減少や少子化の進行は極めて重大な課題であり、より強い表現が必要であると考える。

(会長)

事務局との打ち合わせの際に、年齢別人口構造の資料を拝見した。団塊世代（75～79歳）が突出して多く、50歳頃まで徐々に減少し、そこから急激に減少するという人口構造の変化が見て取れた。今後20年以内に人口構造が大きく変化する可能性があり、健康保険等の社会制度にも影響が及ぶものと考えられる。また、結婚年齢も30代が多くなっている現状を踏まえ、特に子育て施策等に重点を置く旨の文言を答申に明記すべきと考えるが、いかがか。

(委員)

審議会でも特に話題に出た事項であり、強弱が伝わるように表現を変更してはどうか。

(一同)

文言を変更することに異議なし。

(委員)

付帯意見2番の文言についてであるが、同趣旨の内容が繰り返されているため、表現としてやや弱い印象を受ける。「安心して暮らせる環境づくりに努められたい」と「移住や定住の促進、地域の魅力発信など、多様な取組を推進されたい」が2つに分かれて記載されているが、これらを1つにまとめ、より力強い表現とすることで、審議会としての意志を明確に示すべきであると考える。

(会長)

文言については、事務局と検討する。

(委員)

人口減少や少子化の進行が危機的であることを市民に分かりやすく伝えるため、例えば「危機的であり」「加速している」などの表現を加えるべきだと思う。人口構造の変化等の現状を普通の市

民は知らないため、明るい印象も必要ではあるが、危機感を煽るような表現も必要だと考える。

(会長)

計画案や付帯意見はホームページに掲載されるため、文言の責任は重大である。しっかりと表現を考えなければならない。各委員の発言主旨を踏まえ、事務局と更新を行ったうえで答申したいが、よろしいか。

(一同)

異議なし。

4. その他

(委員)

総合計画は、本来、目標を明確に定めるべきものであるが、その達成に向けた具体的なスケジュールが計画書に記載されていない場合が多い。総合計画は策定すること自体が目的ではなく、実行に移されて初めて意義を持つものである。過去の計画が「机上の空論」となり、実施されずに放置されてきた例が少なくない現状がある。現時点においても、10年後には伊豆市が消滅する可能性すら否定できないという強い危機感を持たざるを得ない。したがって、職員、とりわけ幹部職員は、総合計画を単なる書類としてではなく、自らの職務の根幹として捉え、自分たちの仕事そのものが失われる可能性を現実的に想定しながら、人口減少対策に真剣に取り組む必要がある。

現状では、結婚する若者が減少し、子どもたちが市外や海外に流出し、高齢者の割合が増加していることが深刻な課題となっている。これらの現実に強い危機意識を持ち、委員会としても行政に対する責任を明確に認識しなければならない。計画の実効性を高めるためには、行政のみならず、地域住民や関係団体との連携・協働が不可欠である。総合計画は、地域社会全体で共有され、実践されてこそ、目的が達成されるものである。

5. 閉会

(副会長)

副会長という大役を拝命し、皆様のご協力に心より感謝申し上げる。当初、委員を依頼された際には、会議の内容について具体的なイメージを持つことができなかつた。しかしながら、これまでの5回にわたる会議では、いずれも活発な意見交換がなされ、正直なところ大変驚きを覚えたところである。私は、地域の情報誌を子どもたちと共に作成している。今回の活動を通じて、大人たちが伊豆市の将来について真剣に考え、努力している姿を子どもたちに伝えることができるのではないかと感じている。

(会長)

5回にわたり貴重なご意見を賜り、深く感謝申し上げる。これまで市民参加の審議会を様々な形で実施してきたが、今回ほど多くの意見を頂戴できたことは初めてであり、非常に有意義な案が作成できたと実感している。本案は単に保管するためのものではなく、具体的な目標として積極的に活用していきたいと考えている。特に「子育て」や「人と人の出会いの場づくり」に重点を置き、取り組みを強化したい所存である。来年度には、商工会青年部を中心に交流会を開催する予定である。地元で事業を営む若い世代が互いに知り合い、つながることのできる環境を整えることが重要

であると認識している。人と人が出会う場を増やすことにより、新たな取り組みや発想が生まれるものと考える。今後も年齢を問わず多くの皆様のご協力をいただきながら、伊豆市をより良いまちへと発展させていきたいと考えている。

以上